



会長挨拶 「60周年事業に向けて」

皆さま、いかがお過ごしでしょうか。

会長に就任し3年を過ぎ、東京潮陵樽中会の会全体に今後の方向性のコンセンサスを取る必要を感じています。私の専門は、『属性分析』を通し近未来を予測すること、街づくり・建築設計・新規事業設計・新メソッドなどを造る仕事に40年従事してきました。

歴史的街は住民のプライドも高く、他者の始めた事に共感するより反対し続ける事でプライドを継続する属性が有ります。わが故郷小樽もその例外ではありません。同窓会という組織も何らかの成功を収めゆとりの中でプライドを持って、母校や故郷へのエールを送りたい思いで参集の皆さまです。その中で会の運営は簡単にはいかず、過去にも会長の交代による運営方法の少しの変更だけでそれまでの中心協力会員大半が休眠の事態も有りました。大きな組織で力がある場合は共存も可能なのですが、縮小の時期と現体力では継続は不可能と思われれます。これまで、時代の変化に対応すべく運営組織も「名士丸抱え型」から「会員自治型」に3代の会長のリレーで低費用運営に変化してきました。また、独自に設立した東京潮陵樽中会は、潮陵倶楽部の支部と違うというプライドにより母校・ふるさとへの思いはあっても共同事業は難しい過去も有りました。潮陵倶楽部との関係は、新倉会長・大浦会長(54期)そして現在の西條会長・私(65期)の同期会長のリレーで、良好な関係を作る事ができました。

長期の前提としては、人口の減少と高齢化の動向を確認する事が必要です。2050年には、終戦当時の人口に戻り、ピーク時人口全体の70%の減少に成ります。都市では横ばいで地方では50%の減少を意味し、卒業生の規模は2050年には1/2が予測されます。終戦時期と違うのは、年少人口が30%⇒9%、キープしていた生産人口が63%⇒50%、高齢者人口が6%⇒39%に成る事です。したがって、日本では、私たち高齢者が元気な事を活用し、高齢者と女性の1/4が就業(共稼ぎ)するか、1/2が1/2就業を継続することによる、生産人口の確保が必要です。また、その後の改善の方向は見出せません。これらの過去に類を見ない継続的な右肩下りの条件下での会の運営は、「同窓会はこうあるべき！」という過去の経験則は全く通用しない可能性もある

事を共通認識として持ち、新たな構築を皆で模索し独自の方法を作り上げる事が必要と考えて居ります。

会の新たな運営も、個人情報保護法より名簿から展開する事が不可能に成り、独自に人脈をたどり会員を勧誘し、母校の「対面式」に習いする『歓迎』から始まる形式へ開催時期と形態を進化させ、5月に『総会+新会員歓迎会』11月末に会員親睦を図る『潮陵同釜会』の年2回の会合を、従来の新年交礼会と総会をあらため、継続しています。

加えて、潮陵がより潮陵らしく有り続ける為には、我々は何を支援していけば良いのか、また、会合には出席できなくても支援する事業が希望となる新たな会員層を発掘する目的で、地域を愛し知るむしろ遠隔からの視点や支援が効果を上げる事もあるので、5年前より潮陵・小樽への支援事業の模索を進めてきました。その中で、潮陵高等学校と小樽広域との相互の関わりが重要なポイントと考えております。その地域との関わりを東京潮陵樽中会が支援可能な事業は、皆さまからの新たな提案を期待しつつ、現段階で①潮陵倶楽部を支援しての潮陵ハウスの構築の可能性、②母校のクラブ活動や総合学習の出前講座と模索中で、地域との関わりと教育は、今後の日本の進むべき事業でもありますので、有志運営を含め試験へと進めていきたいと考えて居ります。

また、本会は、2017年に60周年を迎えます。周年機会に母校支援事業を進めるとともに、この会の運営自体、若者のチャレンジの機会に、会員の新たな拡大を含めて、2年を掛け準備をしていきたいと考えて居ります。

今後とも、皆さまの忌憚ないご意見をお待ちしています。在校生の「未来のカケラ」になる、東京からの経験に基づいた基調講演や情報発信など、母校への支援としての伝えるべき内容をお持ちの方の自薦他薦、小樽で再活用可能な空き家のご紹介含め是非ご連絡ください。

なお一層の、ご協力をお願いしたいと考えて居ります。

東京潮陵樽中会会長
佐々島 宏 (65期)



第 59 回定時総会第及び新会員歓迎会開催報告

第 59 回定時総会及び新会員歓迎会は、平成 27 年 5 月 24 日(日)、おしゃれな街、青山にあるアイビーホールで開催されました。3 月に母校を卒業したばかりの 109 期1名、108 期 6 名の、7 名の学生会員を含む総勢 52 名が集い、総会初参加者は 12 名を数えました。

14 時からの定時総会は、岸田仁事務局長(67 期)の司会で開始され、始めに、この 1 年間に亡くなられた同窓生への黙祷が行われました。続いて、佐々島宏会長(65 期)から挨拶があり、昨年から総会の時期を5月に早め、若い新会員の歓迎会を行うように変えたこと、年末には同釜会(おなかまかい)を開催するようにしたこと、これにより、本日も、多数の現役学生が参加し、初参加の会員も着実に増えていることが報告されました。また、会の財政状況が厳しい中、小樽支援については、引き続き、取り組んでいきたいとの決意が述べられました。

続いて、総会議長に今日出夫副会長(67 期)を選出し、議案の審議に移りました。第 58 回事業年度事業報告と収支決算報告、会計監査報告、役員改選、第 59 回事業年度計画案と収支予算案、会則の一部変更について審議が行われ、いずれも満場一致で承認されました。大浦辰次郎前会長(54 期)からは、堅実で終わることなく、新たな事業の目玉を見つけてチャレンジして欲しいとの励ましの言葉を頂きました。役員改選では、二人目の副会長に南澤孝夫常任幹事(65 期)が選出されました。

総会の最後に、小樽からの来賓である松代弘之さん(75 期)による「帰郷奮闘記」と題した講演が行われ、50 歳と 3.11 を契機に小樽に戻ろうと思うようになったこと、東京から小樽に戻って、外国人観光客をターゲットとする国際スポーツ雪かき選手権など、多彩なアイデアで地域活性化に取り組んでいる様子などを、夢を実現するために必要となるビジネスの視点も交えて伝えて頂きました。

15 時から、宮野人至さん(86 期)と須永いづみさん(93 期)の司会で、新会員歓迎会に移りました。

来賓の小樽東京事務所長 大門義雄様のご挨拶では、小樽の人口減少・高齢化の将来予測、4月の森井秀明新市長の就任と新政策など、ホットな話題が披露されました。また、来賓の東京小樽会会長の清水川治二さん(52期)からは、東京小樽会総会、および東京小樽会として参加する第50回小樽潮まつりへの参加のお誘いがあり、乾杯のご発声で歓迎会が開始されました。

舞台上では、本日のメインゲストである109期の磯貝尋さん、108期の越前淳己さん、川島丈武さん、寒川壮師さん、三浦綜介さん、渡邊健吾さん、戸ノ崎新さんの、計7名の学生会員の紹介が行われました。諸先輩方の激励の声飛び交う中、

自己紹介、近況報告とともに、20年後の40歳の時に何をしていたいか、東京と小樽のどちらに住んでいたいかを答えていただきました。

歓談の合間には、今年も潮陵クイズが行われ、この日のために松代さんに小樽から調達していただいた賞品の争奪戦が、今回は個人戦で繰り広げられました。

第 1 問目(昨夏の甲子園出場をかけた全国高校野球選手権 南北海道大会決勝戦の対戦相手は; 答え:東海大四高校)は、ほとんどの方が正解でしたが、第 2 問目(今年から一般見学が可能となった和光荘の敷地面積は; 答え:5000 坪)、第 3 問目(天狗山の標高は; 答え:532.4m)で多くの方が脱落し、第 4 問目(小樽市制 90 周年記念イベントで小樽港第 3 埠頭に接岸した“太平洋の白鳥”とも呼ばれる帆船の名前は; 答え:日本丸二世)で 7 人に絞られ、第 5 問目(東洋水産の小樽工場で作られている「やさそば弁当」で存在しない味は; 答え:ほたて味)に正解したのは、越前淳己さん(108 期)ひとりだけでした。

結果、1 位の越前淳己さん(108 期)には、ルタオのお菓子詰め合わせが贈られました。また、2~5 位は、第 4 問目までの正解者の中からじゃんけんで決着し、鮭にちなんだ商品詰め合わせや、利尻昆布などが授与されました。

なお、番外で、ユニマット大沢商会 黒坂則昭さん(67 期)から寄贈された腕時計と小樽から取り寄せた北海道ワインを巡って、6 問目の潮陵クイズが行われました。これは、小樽にゆかりの 3 人の顔写真から、それぞれの名前を言い当てる難問で正解者は出ませんでした。伊藤整(17 期)と小林多喜二を言い当てた本間 佳さん(46 期)、母校の校歌の作者である岡田三郎(4 期)を言い当てた高橋 昭さん(61 期)が、賞品を分け合いました。

楽しい時間もあっという間に過ぎて終了時刻の 17 時となり、全員で校歌を斉唱したのち、恒例により出席者の最年長である 46 期の大先輩 5 人、布施市蔵さん、島 雄一 さん、長尾俊明さん、本間 佳さん、渡辺光三郎さんから、それぞれ締めのご挨拶をいただき、最後は 布施市蔵さんの音頭による三本締めで閉会となりました。帰りのお土産には、中ノ目製菓の大粒の甘納豆と北海道ワインのおたるワイン小瓶(赤)を頂きました。今年も、若い同窓生が多数参加し、華やかで楽しい会となりました。

なお、中ノ目孝道さん(65 期)、黒坂則昭さん(67 期)、北海道ワインの畠村公宏さん(74 期)には、景品、おみやげをご協賛いただきました。88 期の斎藤誠矢さん、高橋明大さん、矢嶋香織さんには、当番期として受付をお手伝いいただきました。また、開催にあたり多くの方よりご寄付を頂戴致しました。末尾となりましたが、厚くお礼申し上げます。



第58回事業年度収支決算(平成26年4月1日～平成27年3月31日)

科目	予算	実績		
		金額	小計	合計
1 当期収入 (A)	1,620,000			1,282,111
1.1 定常収入	940,000		657,000	
1.1.1 年会費	500,000	292,000		
1.1.2 寄付金	350,000	305,000		
1.1.3 広告代	60,000	30,000		
1.1.4 助成金	30,000	30,000		
1.2 事業収入	680,000		625,000	
1.2.1 総会	480,000	463,000		
1.2.2 忘年会	200,000	162,000		
1.3 その他収入			111	
1.3.1 受取利息		111		
2 当期支出 (B)	1,602,000			1,030,420
2.1 ウェブ・会報	395,000		139,670	
2.1.1 ホーム・ページ	75,000		28,728	
サーバー関連	25,000	22,248		
HP更新	50,000	6,480		
2.1.2 会報	320,000		110,942	
デザイン・印刷	150,000	50,230		
封筒		11,140		
送料他	170,000	49,572		
2.2 事業	1,207,000		732,399	
2.2.1 総会・新会員歓迎会	550,000		575,906	
宴会費	550,000	568,206		
案内状作成費・他		7,700		
2.2.2 同釜会	220,000		156,493	
宴会費	180,000	152,000		
案内状作成費・他	40,000	4,493		
2.3 連携事業費(事業計画6, 7)	270,000		30,000	
会議・事務局・備品他	270,000	30,000		
2.4 事務局関係費	167,000		128,351	
2.4.1 事務局費	27,000	22,911		
2.4.2 会議費	60,000	82,348		
2.4.3 雑費・予備費	80,000	23,092		
当期予算収支差額 (C)=(A)-(B)	18,000			251,691
前期繰越収支額 (D)	521,061			
次期繰越収支差額 (C)+(D)	539,061			772,752

同釜会(おなかまかい)報告

東京潮陵樽中会の忘年会 第2回同釜会は、平成27年11月29日(日)に居酒屋「北海道」飯田橋駅前店で開催されました。

5月の総会とはひと味違った親睦の会としての同釜会も今年で2回目、今回は、46期から99期までの37名が参集し、参加者最年少となる実行委員長の村上文一さん(99期:空手部)の司会で始まりました。

初めに岸田仁事務局長(67期)から齊藤始さん(33期)の計報連絡があり、全員で黙祷を捧げました。

校歌斉唱に続いて佐々島宏会長(65期)からは、今回、参加できなかった明治学院大学法学部化学教室助手の岩間世界さん(95期)からのメールが紹介され、京都大学では会長同期の田村類教授(65期)に学び、明治学院大学では法学部長・渡辺充教授(70期)のもとでの勤務と、10年にわたり潮陵OBの教授と関わっていると、潮陵人脈の広さを示すエピソードが披露されました。

さらに、佐々島会長からは、司会の村上さんが「失敗から学ぶサイト」を立ち上げたことから、お互いをもっと良く知るために自分の失敗談を入れた近況報告を行おうとの提案があり、かつて自分の設計した家が深夜2時になると揺れることがあり、もしや心霊現象かと思ったが、原因は、最近の巷で

の問題とは反対に、杭が岩盤にしっかりと達していたため、近くの高速道路を走る深夜トラックによる揺れと共振したらしいという「クイが残る」話が披露されました。

参加者最年長の島雄一さん(46期)のご挨拶と乾杯の音頭を合図に、北海道料理、鍋を囲みながらの歓談、交流、参加者ひとり一人からの近況報告が行われました(なお、島さんの失敗談は、潮陵倶楽部の最新の会報「潮陵」82号に「思い出」という題名で掲載されていますので、そちらを御覧ください。)

会が盛り上がった頃には、衆議院議員の中村裕之さん(73期)も駆けつけてくれました。

出席者から順次近況報告を頂く間に、20階からの眺望をもすっかり夜景に変わり、あっという間に閉会の時間が近づきました。小樽会長の清水川治二さん(52期)のご挨拶の後、島さんとともに参加者最年長である布施市蔵さん(46期)の一本締めで、閉会となりました。おみやげには、もはや恒例となった小樽名産の中ノ目製菓の甘納豆と、北海道ワインの小瓶を頂きました。

その後は、三々五々と街に繰り出し、我々は神楽坂でカラオケ大会となりました。

皆さん、また5月の総会で、お会いしましょう。



『私は今』 近況 1 (平成 27 年 5 月の総会案内時の近況連絡より)

【36 期】千葉 誠一 (下野市) 気は若い体がついて行きません。現在、心臓病で薬を飲んで頑張っています。

【37 期】中山 保人 (町田市) 90 になってしまいました。気楽に毎日を送っています。

【38 期】田口 俊夫 (府中市) 内科・小児科を開業し、小さい子供から年寄りを相手に診療しています。乾 学 (我孫子市) おかげさまで元気に過ごしています。4 月法事出席のため帰郷しました。小樽運河周辺を散策、ふるりの良さを感じ帰宅しました。

【39 期】藤野 破摩雄 (横浜市) 持病のため参加出来ず残念です。新会長のご活躍を祈念し、ご盛会をお祈り致します。

【42 期】勝田 晴夫 (八千代市) 孫達と喧嘩しながら楽しく過ごしております。毎年さくらを楽しんでおります。田代 武雄 (藤沢市) 体力維持を心掛け生活を楽しんでいます。当会の運営に感謝します。田中 英輔 (立川市) 小学 2・3 生の頃、緑町の実家の向いに竹鶴政孝ご夫妻が引っ越して来られ話題になった思い出があります。

【43 期】河原 順二 (柏市) お陰様で元気にやっております。会報等楽しく読まさせて頂いています。林原 隆一郎 (横浜市) 会報 12 号で樋口弘大先輩の訃報を知りました残念です。ご冥福をお祈りします。早見 弘 (目黒区) 日ごと 20 分の散歩で健康管理というところです。間所 一郎 (我孫子市) このところ慢性腎不全に加え認知症も心配ですので、残念ながら欠席します。

【44 期】阿部 秀三 (八千代市) 変形性膝関節症で外出を控えております。同窓会のご盛会を祈念しております。併せて諸兄弟姉のご健康を祈っております。鬼頭 建治郎 (所沢市) 本年は年男 3 月に 84 才になりました。大方ガタがきておりますが何とかゴルフを続けております。道上 進 (中野区) 都民体育大会卓球競技開催日につき欠席します。東京都卓球連盟会長として多忙な日々を過ごしています。酒井 幸三 (川崎市) 体調不良のため欠席します。皆様の健康と会の発展を祈ります。苫米地 和夫 (港区) 元気に過ごしております。本間 正和 (三鷹市) 横浜市のカメリア診療所で所長をしております。

【46 期】桶谷 米四郎 (恵庭市) 田舎もすばらしいです。自宅前の公園の池には、鴨などの渡り鳥が故郷へ帰る仕度をしております。通院がやっとならば欠席します。川越 重義 (横

浜市) お陰様で俳句・水墨画にと自分で忙しくしています。年齢の割には元気のつもりです。会のご盛会を祈念致します。

中山 茂博 (横浜市) 夫婦共(潮陵卒)健康で楽しい毎日をごしております。つくづくお金より(あまりないが)健康が宝であることが解りました。中山 条爾 (柏市) 老いのあじわいを楽しんでみえます。ご盛会を祝す。布施 市蔵 (小平市) 今年 4 月で 83 才。今のところ 5 月の連休には残雪の春山に行けそうなので体調に注意している毎日です。本間 佳 (横浜市) 83 才になりました。先の冬にはルスツと志賀高原でそれぞれ 1 週間のスキーを楽しみました。宮野 清 (川越市) 色々とお世話になりましたが、歩行もできず、寝ております。皆様によりしく御願い申し上げます。

【47 期】金子 明石 (松戸市) 高台にあった校舎からの帰路タケスキーで下校したことを思い出します。癌発見から 6 年目に入り、不安を感じながら暮らしています。週 1 回のリハビリ指導で体力を維持しています。

【48 期】小島 黎子 (福生市) 80 才になりました。早いものです。毎日家事、趣味の教室に通える分の元気は保っております。毎年東京での同期会に出席するのが楽しみ。出来る限り続けて出席するのが目標です。ご盛会を祈ります。小西 豊次 (さいたま市) 昨年 3 月に脳内出血で倒れ、現在要介護 5 の状態で治療中です。今後も同窓会の出席は厳しく感じております(ご長男様より)。照井 義弘 (日野市) 元気で過ごしています。村上 絳子 (中央区) いつもお便りありがとうございます。拝読して学生時代を懐かしく、思い出しております。総会には都合が付かず欠席させていただきます。

【49 期】安宅 忍 (中央区) 5 月 24・25 日とホテル「椿山荘」にてディナーショーあり、残念! 田中 穰二 (前橋市) 現在 78 歳ですがいろいろお世話になっているので、寄付をさせていただきます。岡崎 俊也 (川崎市) 運動の為、週に 2、3 日の割で臨時に仕事にでています。鎌田 陸男 (町田市) 78 才、無職、静養中。会費、寄附送金しました。高井 賢治 (さいたま市) 体調不良。

【51 期】荒野 義郎 (松戸市) ついに喜寿を迎えました。この 6 月には進工業株の監査役も辞任する予定です。段々出不精になってきました。ご盛会を祈ります。大木 恵子 (浦安市) 元気にしております。北 正明 (川崎市) 会長他関係者の皆様に感謝であります。佐々木 允明 (横浜市) 元気にやっ

います。皆様によろしく。**瀬戸 国彦**（川崎市）77 才となり、入院通院を繰り返しながら、余生を過ごしております。**中野 政一**（茅ヶ崎市）旅行の予定あり、出席できません。御盛會を祈ります。**上諏訪 一明**（川崎市）8月に7泊で稚内より東海岸巡りを予定しております。**野田 徹**（さいたま市）今年喜寿を迎えます。弱くなったもの、気力、体力、金力、女房に対して。強くなったもの、終活、借金(死んでも払ってやるものか!)**山下 誠一郎**（大和市）元気に過ごしています。朝の散歩を日課としています。昨年は久しぶりに小樽に行きました。港が再び船で賑わうよう祈ります。

【52期】**清水川 洽二**（取手市）下手なゴルフを続けて、健康管理に努めています。**高田 悦子**（横浜市）体調不良にて欠席。

【53期】**佐藤 眞**（厚木市）歳を取ると出不精になってしまいます。週5回のジム通いで食事制限なしで糖尿病を克服しています。**堀内 昭忠**（春日部市）結婚50年で初めてクルーズ・ボイジャー・オブ・シーズで海外に出ました。

【54期】**岩井 宏輔**（渋谷区）常任幹事の苦孝二区議と同じ町に住居し、先般お会いした所、中学(潮見台)も同じの事、本当に小樽が懐かしく思いました。マッサンで全国区になりうれしいです。**小川原 康文**（鎌ヶ谷市）足の具合が悪いので欠席します。**中野 有子**（牛久市）新会員の年令の差を感じます。主人共々体に気をつけて暮らしております。**永野 茂**（流山市）今総会は欠席いたします。前回の様に老若多くのOBが集う会のご成功を願っております。**藤田 幸久**（横浜市）趣味のミステリー創作は15作品をAmazon Kindle本に登録しました。英国を舞台とする推理小説です。今年は小樽商大卒50周年記念行事で10月に小樽に行きます。**本間 榮一**（大田区）月に8ヶ所の老人ホーム歌の慰問を11年間続けています。当日もそれにぶつかり、出席できません。**山館 博康**（茅ヶ崎市）少々体力がおとろえて来ましたが元気で暮らしております。青春時代ははるか遠くです。

【55期】**新岡 脩司**（流山市）25日早朝に小樽・ニセコへ出発の為欠席させていただきます。ご盛況を祈念します。**藤本 祐一**（那須塩原市）東芝で医用機器に従事した。退職後、JICAのシニア海外ボランティアとしてフィジーで活動した。趣味はスキー、オーディオなど。

【56期】**是安 克彦**（掛川市）若い頃からの「乗り鉄」で現在までJR線の90%乗りました。中国地方と東北地方の一部が残っています。**加藤 義雄**（上尾市）今年6月下旬2年ぶりに小樽を予定しています。学生時代の友人と札幌、小樽で会う事楽しみです。**久保田 佳子**（横浜市）5月24日は上野で行われる演奏会の予定が入っていますので欠席します。盛會でありますように。**寺岡 恵美子**（綾瀬市）健康上の理由で欠席いたします。盛會をお祈りいたします。

【57期】**石森 洋子**（柏市）5/23(土)に57期東京同期会開催です。24日は出席できませんが盛會を御祈念いたします。**宇野 友康**（千葉市）たまたま23日が高校57期の“いんでない会”があります。連日は無理です。申し訳ありません。盛會を

祈っております。**河合 洋子**（春日部市）昨年10月57期同期会が、小樽組と内地組の合同で行い楽しいひとときでした。

【58期】**内山 一彦**（横須賀市）趣味は山登り、スキー、旅行。職種は元住宅メーカー勤務。**堀米 昇士朗**（鳩山町）JICAを退職し2015年10月にカンボジア、プノンペンにてベーカリー、コーヒーショップを開店予定です。どうぞお越し下さい。**松岡 厚**（越谷市）税理士業10年目となり、お陰様で元気に過ごしております。

【60期】**一宮 廣史**（さいたま市）小樽を離れ、早くも50年にならんとしています。母校の発展と、会員皆様のご多幸をお祈り申し上げます。**加藤 輝雄**（入間市）今年6月に久しぶりに小樽へ行きます。大変楽しみにしています。**沢里 信治**（所沢市）体調不良につき欠席いたします。**柳田 眞典**（葛飾区）昨年11月に60期同期会として長崎旅行会を開催しました。遠方にも関わらず40名程参加しました。眞島先生に参加していただき先生は変わらずとてもお元気でした。

【61期】**梅村 勝**（練馬区）いくつかの用が重なってしまいました。**土屋 明重**（上田市）会報を見るのが楽しみです。母校の話は懐かしいです。**甲田 隆**（春日部市）次第に暇が増えてきました。**檜見 芳郎**（船橋市）野球部です。我々の時は久しぶりに後志地区を勝ち上がり南北北海道大会まで行ったのですが、初戦で駒沢苦小牧に負けました。また、器楽同好会のエレキバンド、シェイクスのベースリストでもありました。現在は退職し、趣味はゴルフとエレアコ(エレクック・アコースティック・ギター)の演奏です。**牧野 年**（さいたま市）67才を目前にしていますが、毎日満員電車でもまれるのも健康維持の一助になっているかも知れません。**渡部 敏**（水戸市）病氣治療中なのでお酒は飲めませんが皆さんのお顔を見に参加したいと思っています。

【63期】**奥谷 光夫**（世田谷区）北海道を離れて15年目になりますが、東京の生活に慣れてしまいました。大学時代はスキー部でしたが、寒いところ、滑る道が怖くなった今日この頃です。皆様のご健勝を祈念します。**佐竹 茂市郎**（立川市）色々なボランティア団体の活動に参加しており多忙な毎日がつづいています。在学中は、詩吟部で部長をしていました。**竹田 信一**（横浜市）大学卒業後、商社に37年勤務致しました。(其の内、海外の中東とブラジルに2回赴任を致しました。)4年前に退職後、縁有る会社の顧問として気楽に勤めています。

【定64期】**苦 孝二**（渋谷区）皆様のご支援で8期目の渋谷区議会議員選挙に当選しました。ありがとうございました。

【65期】**安藤 治**（狭山市）在学中は野球部。航空自衛隊を退職し、日々ジョギングと囲碁を楽しみ、のんびりと暮らしています。**近藤 寛希**（府中市）佐々島会長を支える為にも、今後は同期の参加者が増えるようにさらに努力して参ります。**南澤 孝夫**（浦安市）潮陵高校では3年間、美術部(白潮会)に所属していました。現在は、放射性医薬品の研究開発を行っています。ラジオアイトープを利用した癌の診断薬、治療薬や、アルツハイマー型認知症の診断薬などです。**福井 早枝子**

(横浜市) 音楽人生、継続中です。同窓会の会計、そろそろ交替希望で次の会計さん募集しています。

【67 期】金子 啓一 (横浜市) 還暦を過ぎ、第二の人生に入りました。今日出夫 (横浜市) 軟式テニス部でした。

【69 期】東 洋右 (練馬区) 私は来年 5 月で 60 歳で、勤務も嘱託になります。これを節目に、自己啓発と体力維持を目指して基本から鍛え直したいと思います。

【71 期】安藤 淳子 (文京区) 実家は、余市、ニッカの真ん前です。まっさんで、盛り上がりました。今年の秋からの朝のテレビ小説は出身大学の日本女子大学のお話、楽しみです。趣味は、フラメンコ、薔薇、鈴蘭、紫陽花を育てる、和菓子作り。スペイン語は通訳できます。

【72 期】廣田 直行 (千葉市) サッカー部(暁鐘会)。出席で連絡しましたが、急に出張が入ってしまいました。次回皆様にお目にかかること楽しみにしています。

【73 期】海野 道子 (新宿区) 俳人・権末知子として「NHK 俳句」(E テレ第 3 日曜)の選者をつとめております。大町 宏志 (立川市) 上前歯 6 本の仮々入れ歯が 3 月上旬以来行方不明になっていましたが、4 月末の半強制的引越し後 2 カ月ぶりにおかげさまで見つかりました。中村 裕之 (千代田区) 羽球部。北海道議会議員をへて、現在衆議院議員 2 期目です。山下 眞毅 (三鷹市) 一橋大学経済学部卒業後、(株)三菱銀行へ入行。米国(シカゴ・NY)、シンガポール、ベトナム駐在を経験、主に外為市場部門、国際部門を経験しました。ホーチミン支店長を最後に銀行を退職、今年 4 月から(株)大気社(建設業)の海外コンプライアンスを担当しています。初参加となりますが、どうぞ宜しくお願い致します。

【75 期】杉中 雅博 (横浜市) 「肉のハナマサ」でラムスライスを買い、バルのたれに漬けて込んで、ひさしぶりにジンギスカンを食べました！翌朝も部屋中ジンギスカン臭がたつぷりと・・・

(笑)

【81 期】福田 洋 (中央区) 順天堂大学医学部総合診療科で頑張っています。御盛会をお祈り申し上げます。

【85 期】安藤 公一 (札幌市) この 4 月から勤務先が異動となり、東京から札幌に引っ越しすることとなりました。また、東京に住むようになった際は、なにとぞよろしくお願ひいたします。

【88 期】内海 隆幸 (文京区) 在学中は帰宅部。現在は弁護士稼業をしています。東京も飽きてきたので北海道に帰郷しようかと思案しています。矢嶋 香織 (江東区) サッカー部のマネージャーでした。今は音楽関係の仕事をしています。今年当番という事なので、お手伝いしに行こうと思います。

【90 期】後藤 いつ子 (千葉市) 千葉で看護師として働いています。今回は都合が合わず不参加とさせていただきます。またの機会を楽しみにしています。

【95 期】岩間 世界 (横浜市) 在学中は、化学部、生物部、物理同好会、地学部にも所属。関西で大学、大学院、ポストク計 10 年を過ごし、現在は、明治学院大学で化学を教えています。

【100 期】直江 香世子 (板橋区) 今春、東京藝術大学大学院を卒業し、作編曲家/ピアニストとして活動しております。在学中は音楽部でした。www.k-naoe.com

【108 期】越前 淳己 (練馬区) 早稲田大学社会科学部 2 年。同期を誘って出席。

【109 期】板本 大毅 (さいたま市) サークルは決めてませんが、入るなら音楽系か国際系で迷っています。趣味は音楽鑑賞や野球観戦です。当日は、将来国際系の職につきたいと思っているので、もしあればそういう職についていらっしゃる先輩方にお話しさせていただければ幸いです。どうぞよろしくお願ひいたします。

『私は今』 近況 2 (平成 27 年 11 月の同釜会案内時の近況連絡より)

【43 期】間所 一郎 (我孫子市) 何分高齢のため出歩くのが困難で残念ながら欠席いたします。

【46 期】中山 条爾 (柏市) 2013 年 8 月に脊髄を損傷して歩行不自由になるも、リハビリに頑張っています。本間 佳 (横浜市) 昨年は間質肺炎を病んで欠席、今回は軽度ですが脳梗塞を発症しているため欠席となります。参加出来ず残念なことです。

【51 期】荒野 義郎 (松戸市) 元気なのですが、9 月末で満 77 歳になり、高齢化で外出を出来るだけ減らそうとしています。佐々木 允明 (横浜市) 元気にやっています。あと 10 年は家業を続けたいと頑張っております。上諏訪 一明 (川崎市) 重複している他の会議との調整がつかず欠席しますので悪しからず。膝の手術後のリハビリもあまり効果なく歩行に支障、難儀しております。ねんれいには逆らえません。野田 徹 (さいたま市) 10 月 22 日横浜中華街で同期会がありました。出席 24 名。

【54 期】上野 直子 (千代田区) 趣味:健康のための太極拳、職業:私立大学教員(2012 年定年退職)。藤田 幸久 (横浜市) 今年は 10 月に小樽商大卒業 50 周年記念行事に参加するため小樽に行きました。来年はいよいよ後期高齢者になります。週 2 回ジムで運動をして、健康維持に努めています。趣味で書いている英国を舞台とするミステリー小説が 18 冊になりました。Amazon Kindle Book(電子図書)に登録しています。よろしかったら Amazon Web Site を訪れてみてください。

【56 期】荒川 勝尚 (三郷市) お陰様で元気でやっております。

【59 期】齋藤 健三 (宇都宮市) 先約があり残念ですが参加できません。今現在は特に何もしていません。健康のため、月 2~3 回のゴルフを楽しんでいます。

【60 期】加藤 輝雄 (入間市) スキー部 (マネージャー)、銀行を 2 年前に完全フリーになり自由気ままな生活を送って

います。中澤 英雄（東金市）転居しました。柳田 眞典（葛飾区）今年の60期同期会は11月8日に京王プラザホテルで開催され50名程参加しました。翌日は有志で小江戸川越散策をしました！

【61期】高張 賢一（入間市）時々仕事、時々山歩き、時々飲み会で過ごしています。

【65期】滝沢 純（坂戸市）趣味:ゴルフ・囲碁、自動車会社定年後 家具メーカーへ、2001年から5年中国駐在、現在も中国東南アジアの出張が多い。

【84期】土屋 理恵（横浜市）旧姓 佐藤、放送部。

【85期】土屋 貴嗣（横浜市）放送部。

【95期】岩間 世界（横浜市）先約があるため欠席させていただきます。潮陵倶楽部会報「潮陵」2015年3月号に、寄稿させていただきました。

【99期】村上 文一（豊島区）在学中は空手部でした。現在はITコンサルティング会社でエンジニアとして働いています。

訃報 謹んで哀悼の意を表し、ご冥福をお祈りいたします。

齊藤 始	(33期)	平成27年1月	大手 良夫	(39期)	平成26年12月
森田 緑郎	(33期)	平成27年9月	和田 昌雄	(40期)	-
和田 克己	(35期)	-	伊藤 好信	(41期)	平成26年10月

寄稿「私の絵画における原点と今後の目標」

小野田 恭子 51期

私は絵が大好きで小学生の頃からよく描いていましたが、本格的に始めたのは、子育ても一段落した40歳頃です。

絵を書き始めるに当たって、複数の先生方に師事し、色々教えていただきましたが、私が最も強い影響を受けたのは、武蔵野美術大学教授(当時)で新制作展の重鎮であられた故赤穴宏先生(1922年～2009年、根室生まれ)と、その奥様で抽象画家の赤穴桂子先生(1924年～1998年)です。

また、旧制小樽中学(現在の小樽潮陵高校)ご出身で東京芸大油絵学科卒の武石文樹先生が主宰するスケッチの会(先生の樽中同期生も10名ほど参加)に在籍させていただき、デッサンの基礎を教えていただいたことも、現在、私が絵を描く上で大いに役立っています。

1918年10月に、女流画家の育成と登竜門の役割を担うべく、わが国初の女流画家公募団体として「朱葉会」(命名者:与謝野晶子)が創設されており、1947年の第27回展以降は毎年6月に「朱葉会展」が上野の東京都美術館で開催され、今年は第95回展となります。

私は、30年前に、この100年近い歴史のある「朱葉会」に入会し、その後30年間にわたり毎年出展を続けてきましたが、東京潮陵樽中会のオフィシャル・サイトにも以前ご報告させていただいたとおり、昨年の第94回朱葉会展(2015)で、幸いにも、同会の最高の賞である「朱葉会賞」を受賞することができました。これもひとえに、私を指導・応援くださった諸先生方および周囲の方々のお陰と感謝いたしております。

また、縁あって、私の絵画が、東京丸ビル最上階のフレンチ・レストラン「モナリザ」に5点、さらに、ドラマ撮影によく利用される小田急線鶴川駅近くの「ビーンズファーム」(ログハ

ウス造りの喫茶店)に4点展示されておりますので、お近くにお越しの方は、是非ご覧いただけたら大変嬉しく思います。

こうして、自身の絵画歴を振り返るにつけ、その原点が、まさに小樽にあることを実感いたします。

終戦の年に湘南から転校し、小学校、中学校、小樽潮陵高校へ、そして北海道炭鉱汽船での3年間勤務と約15年間を小樽で過ごしました。実家は、水天宮を背に、小樽港の防波堤の赤灯台と白灯台を左右に一望できる非常に眺めの良い高台にあり、窓越しに、昼は、小樽港に出入りする日本船や外国船を眺め、夜には、満天の星空の下、小樽港に停泊する20隻近いタンカーの灯りを目の当たりにしていました。そして、銀鱗荘のある平磯岬のトンネルに夜行列車の窓明かりが1つ1つ吸い込まれていく風景を眺めつつ、これから始まる長い人生の夢に思いを馳せる日々でした。

また、今から4年ほど前に、小樽潮陵高校同級生が主催する『古い名建築を訪ねる会』に参加させていただき、東京とその周辺に点在する名建築を見学して建築に関する知識を身につけ、改めて「小樽の街には、美しく貴重な建築物が何と多く現存しているか」を知るとともに、これらの素晴らしい建築物を日常的に身近にしながら育った環境も、私の絵に多大な影響を与えていると実感する今日この頃で、本当に、小樽には、ただ感謝、感謝です。

学生時代には、机の前の壁に、ポール・ゴーギャン(フランスのポスト印象派の画家、1848年～1903年)の絵画を飾っていました。ゴーギャンは、浮世絵の影響を強く受けた画家として知られていますが、その浮世絵の手法を取入れたカラフルな色使いと「ふちどり」の描画手法、平面的で装飾的な画面構成の重視、主観性の強い内面表現や、神秘主義的な

題材を用いることなどの傾向がある象徴的な絵画であり、私は、今でも変わらず、ゴッホの絵画に憧れています。

また、以前には、20世紀初頭にパブロ・ピカソやジョルジュ・ブラックによって創始されたキュビズム(あらゆる対象物を幾何学的図形に還元して描く、立体派とも呼ばれる)のような絵を描きたいと思った時期もありました。

しかし、今は、アンリ・マティス(仏画家1869年～1954年)が若い頃に言っていた言葉、『私が夢見るのは、心配や気

がかりの種のない、均衡と純粋さと静謐の芸術であり、すべての頭脳労働者、たとえば文筆家にとっても、ビジネスマンにとっても、鎮静剤、精神安定剤、つまり、肉体の疲れを癒す良い肘掛椅子のようなものでありたい』のように、私の絵を鑑賞していただく人々に安らぎを与えることができ、心が休まり、優しい気持ちになれる絵、更に言わせていただければ、生きていく意欲が沸き、共感を覚え感動し、苦しみから救われるような絵を描くことが出来ればと願っています。



東京丸ビル最上階のフレンチレストラン「モナリザ」にて(小樽潮陵高校同期生と)



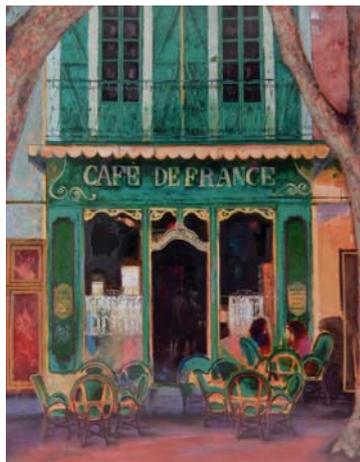
第89回朱葉会(2010)出展作品「窓」



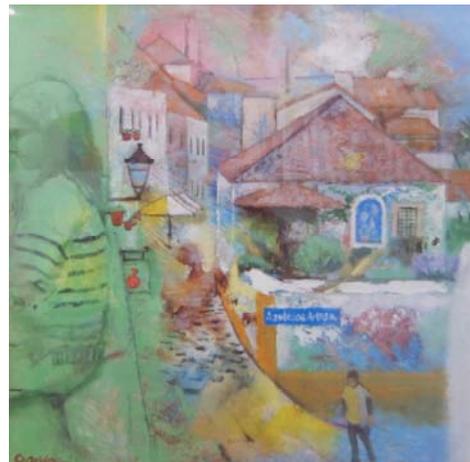
肘掛椅子



フランスのカフェレストラン



第92回朱葉会(2013)出展作品「CAFE」



イタリアの街角



第93回朱葉会(2014)出展作品「凜」



イタリア トウルツリ



新宿「絵夢画廊」にて 向かって一番左の絵は現在「ビーンズファーム」に展示されています。

いつだって北海道がナンバーワンでした。面積はもちろん、食べ物の美味しさや観光地としての魅力度だって他の地域に負けたことなんてありません。きっと『ふるさと北海道』はみなさんにとっても自慢の場所になっていると思います。しかしその反面、止められない少子化・過疎化により、これまで廃校になった学校の数も実は断トツで多くなっています。ここ数年は毎年平均で50〜60校が廃校になり、2位の東京都をダブルスコア以上で圧倒的に離して全国1位の座を獲得しているのです。廃校と聞いて、何を思い浮かべるでしょうか。通っていた小学校はもう廃校になってしまった。という方も多くいらっしゃると思います。私の母校もカウントダウンがはじまったようです。さみしいですね、母校がなくなるって。

私は東京都世田谷区にある、いわゆる『廃校活用』した施設の運営の仕事をしています。IID 世田谷ものづくり学校(アイアイディー せたがやものづくりがっこう 以下IID)はもともとは池尻中学校でしたが、2004年に近隣にある三宿中学校と統合したことにより廃校となり、現在のIIDとして生まれかわっています。廃校活用といえば行政からの指定管理制度で運営しているケースが多くありますが、IIDの運営をしている我が社は株式会社であり、民間主導で運営している廃校活用事例としてオープン当時はパイオニア的存在だったようです。2016年7月で丸12年となりますが、世田谷区とは5年ごとの定期借家契約を結び、毎年家賃を支払いつつ、施設内に40社ほど入居しているオフィスからの家賃収入と、一般に開放しているパブリックスペースの利用による時間貸し収入を主なソースとして運営しています。その他には観光拠点化を目標として、ものづくりワークショップやセミナーを開催するほか数千人を

集めるイベントなども主催し、来館者は毎年5万人以上に達しています。

また、2012年には島根県の離島に『隠岐の島ものづくり学校』を、2015年には新潟県三条市に『三条ものづくり学校』をオープンし、ものづくりをキーワードに都心と地方で連携しながらの運営もはじめています。施設がオープンすることで働く場所ができ、雇用もうまれました。東京で働いていた三条出身者がこのタイミングだとUターンを決意して三条ものづくり学校で創業したというケースもあります。また、都心との太いパイプを活かした発信力を使うことで、隠岐の島や三条の魅力や産業がより注目されるきっかけの一助になっています。

はじめは廃校という場所を若いクリエイターが集うカオスな空間にしたいという思いではじまったものづくり学校ですが、現在は地域に愛される場所として、地方のUターンの受け皿として、さらに新しい産業がうまれる拠点としても成長しています。

学校は地域の中心にあるので住民にとっても思い入れのある建物だといいます。母校がなくなってしまうことは受け入れがたいことで、廃校ではなくいつかまた子供が増えて校舎が使われることを願って『閉校』としたまま正式な廃校の手続きをしない地域もあるほど、学校という建物の存在の大きさを感じます。そんな中、全国でひろがる廃校活用により、地域にとってのシンボルである校舎は残しつつ別の役割を与えることで新しいコミュニティの中心として息をふきかえす事例も多くなってきました。廃校とは、決して後ろ向きな決断ではなく、大きくて積極的な一歩になるはずです。思い出のつまった校舎が無駄にならずに、その地域らしいかたちで『これから』につなげられることを願います。



IID 外観



リノベーションしたエントランス



イベント開催の様子(世田谷パン祭り)



入居企業の例

(和歌山のファクトリーブランドのショールーム)



新潟県三条市のものづくり学校



佐々島会長様はじめ東京潮陵樽中会の皆様には、日頃より本校教育活動に多大なるご支援を賜り、心より御礼申し上げます。本校の近況につきましてご報告させていただきます。

『引き継がれる文武両道の伝統』

さて、平成27年3月には第109期生が卒業しました。この学年は本校の伝統である「文武両道」を体現し、高い志を持ちながら進路実績においても北海道大学医学部医学科現役2名はじめ国公立大学医学部医学科5名、北大21名(現役18名:全道8位)、東北大、東京外大、大阪大、九州大など多くの生徒が国公立大学や難関私大に合格しました。

そして、平成27年4月には112期生である240名の新入生を迎えて、新年度がスタートしました。現在90%以上の生徒が何らかの部活動に加入して、勉学と部活動との両立に汗する姿が見られます。

中でも夏の甲子園出場をかけて昨夏に開催された、第97回全国高等学校野球選手権大会では、昨年度に引き続き南北北海道大会に駒を進めました。南北北海道大会では1回戦、函館ラサールを11-1(5回コールド)、2回戦、札幌大谷高校6-1で破り、準決勝進出を果たしました。

準決勝は強豪北海高校との対戦でした。甲子園大会は昨年で100年となる節目の年であり、北海道の初めての甲子園大会である第1回北海道大会の開幕戦が小樽中対北海中だったのです。このことは、7月23日の日刊スポーツで以下の様に取り上げられました。『1920年(大9)、第1回北海道大会の開幕戦が、それぞれの前身にあたる小樽中対北海中だった。簾内義隆監督(45)は「甲子園100年の節目の年に、北海と対戦できることは大変光栄です」と述べた』

全校応援も1回戦、2回戦、準決勝と回を追う毎に熱を増し、全校生徒が声を振り絞って仲間の健闘を力づけました。結果は7回コールドで敗れましたが、2年連続ベスト4以上の成績を残し、全校一丸となって戦った熱い夏の日々は、生徒1人1人の心に強く焼き付けられました。昨年度に引き続き、全国各地の同窓生の皆様から暖かいご声援をいただきましたことを、この場をお借りして御礼申し上げます。

その他、本校生の活躍として、陸上部の古谷勇人君が全道高校陸上選手権大会八種競技で2位入賞を果たし、和歌山県で開催された全国高校総体に出場しました。また、美術部の谷内山莉花さんの作品『時』が高文連全道大会で最優秀賞を受賞し、滋賀県で開催された全国大会に出場しました。さらに、國學院大學主催第19回全国高校生創作コンテスト現代詩部門で文芸部の角田萌さんの作品「有機野菜」が、応募613点の応募作品中、優秀賞(2位)を獲得しました。そして、酪農学園大学主催「高校生による牛乳類を使ったお菓子レシピコンテスト」で田村咲樹さんが428点の応募中、グランプリ(1位)を獲得し、作品『はい、チーズ！ milkレープの雪景色』が商品化され、10月上旬、道内のセイコーマートの店頭に並び

ました。このように、在校生は潮陵らしく、様々な分野で活躍しています。

『潮陵コンサート大成功！ TOKIOの「THE鉄腕ダッシュ」に本校生が出演！』

小樽市で話題となったこととして、昨年9月12日(土)に一鐵久美子さんのソプラノコンサートが潮陵記念館コンサートありました。ピアノ伴奏がああゴーストライターで話題となった新垣隆氏だったこともあり、チケットは即日完売し、多くの市民が潮陵記念館に詰めかけました。例年通り、コンサートは潮陵らしい文化的な雰囲気でも盛り上がりましたが、「人気の新垣氏を招聘するとは、さすが潮陵だ！」という声が多く聞かれました。

また、去る2月7日(日)に放映された日本テレビ「THE鉄腕ダッシュ」の「ご当地応援企画」で、本校と生徒が出演しました。五右衛門像の宗円寺の上から、城島さんが潮陵坂をソリで滑り降りてくるところを生徒が応援するという内容でした。放送では本校の生徒が城島さんのソリを押ししたり、校舎の窓から声援を送っている画像が写し出され、「小樽一の進学校」とテロップでの紹介のおまげがつけました。

『国際交流をはじめとする同窓生の皆様のご支援に感謝』

3年前の着任時より国際交流に力を入れ、留学生の引き受けや「留学生と話す会」「海外青年協力隊の体験講話」などを実施してまいりました。昨年度はYFUのご紹介でタイからチャンラ・ピムファムさんが本校に9ヶ月間留学在籍し、今年度は北海道の事業でアルバータ州のセント・アルバート高校からテトロール・シアナさんが8月から2ヶ月間本校へ留学し、本校からは2年生の松浦萌子さんがセント・アルバート高校へ11月から2ヶ月間短期留学しました。

このような中、このたび潮陵クラブのご支援により、平成28年度よりニュージーランドのオタゴ大学ランゲージセンターへ、本校生2名を短期語学研修に派遣していただけることになりました。西條文雪同窓会長が小樽ニュージーランド協会35周年記念訪問でダニーデンを訪問した際に、オタゴ大学ランゲージセンター校長のロジャー・マクウェイン氏と提携調印を交わし、11月17日に本校へ来校され、本校校長として調印を行い、3者で提携を交わしました。このことで、本校生が国際交流に一層関心を持ち、眼差しを広く世界に向け、国際的な視野を持った人間に育ってくれることを願っています。

また、平成25年度末より継続的に実施してまいりました、大学訪問では各訪問先の大学の先輩には大変暖かく迎えていただき、手厚くご説明・ご指導いただきました。活躍する先輩達の姿は在校生にとって人生の指針そのものであり、また目標でもあります。世代を超えたつながりの持つ力を在校生の糧としながら、未来への架け橋としての本校生と潮陵の伝統を大切に育ててまいりたいと考えておりますので、今後とも

変わらぬご支援をお願い申し上げます。最後に、簡単措辞ではございますが、東京潮陵樽中会のますますのご発展と

皆様のご健勝を祈念し、挨拶とさせていただきます。



60周年事業、「母校潮陵が潮陵で有り続ける為に！」 届けようOB・OGから社会情報を！

東京潮陵樽中会会長 佐々島 宏 65期

学力だけでは、私立に追いつかれている！

在校生に、「未来のカケラ」の気付きの何かを伝える為に、OB・OGの社会経験を母校に出前講演をする事や情報を冊子で伝える事業を行おうと考えて居ります。

外形標準での偉い役職に就いたという事より、どんなプロセスでその役職に登ったか？

大学の学部学科の選択では無く、面白い研究をしているOB・OG教授の情報。

企業ブランドや役職では無く、こんな面白いビジネスモデルが、当時の社会環境市場にマッチした理由は何か？そこにOB・OGがどの様な立ち位置で携わったか？

経験者でなければ分からない、リアルな観点と立ち位置を在校生の「未来のカケラ」として、OB・OGが提供する事

が、潮陵が潮陵と有り続ける為のエッセンスの一部の可能性と考えて居ります。もちろん、興味を持つ事、遣ってみる事、それを継続し続ける事も簡単に決められない事です。しかし、予測していないものは網膜に像が映し出されても、見えない！予測していない事は鼓膜を振動しても、聞こえない！予測が無いと気付かない！

気付きにつながるOB・OGの観点と立ち位置での情報を在校生に、是非、届けよう！

母校潮陵が潮陵で有り続ける為に、皆様の自薦他薦の小樽では知りえない、学校では予測できない事実をご提供ください。

簡単な情報をお寄せいただいで、こちらで取材をしてもかまいません。

年会費納入と寄付・広告協賛のお願い／事務局より

東京潮陵樽中会は、昭和33年に発足以来、諸先輩、後輩の支援を得て59年目を迎える歴史と伝統を誇る広域関東圏在住者の同窓会です。

小樽同窓会との連携、母校支援・同窓支援につながる活動の具体化を目指すとともに、本会の継続・発展のため若手会員募集に努めているところです。

本会の運営は会員諸氏の年会費一般2,000円、学生1,000円(75歳以上無料)と寄付、広告協賛金によって支えられています。

平成27年度の12月末時点で、収入のうち年会費は350,000円と寄付金は174,000円です。年会費は改善傾向にあります。これらの合計金額は年度計画予算の75%と少なく、

平成26年度収支決算額597,000円よりも厳しい状況になっています。このため、これまでは名簿登録者全員に郵送していましたが総会案内と会報ですが、昨年に続き、最近の5年間に1回以上の年会費納入・寄付または本会行事案内に返事をいただいた方々に限定して郵送することになりました。

この現状をご理解の上、つきましては年会費の納入と寄付のご協力・支援を改めてお願い申し上げます。

納付方法ですが、次の(1)～(4)いずれかの方法で振込みをお願いいたします。なお、振込みの際、通信欄・連絡欄等には 会費・寄付の別、卒期、e-mailアドレス を記入いただくと助かります。

また、広告協賛につきましては事務局までご連絡をお願い

申し上げます。

(1) ゆうちょ銀行の払込取扱票による振込み

- ① 払込取扱票の口座記号「00180-8-」
- ② 払込取扱票の口座番号「61069」を右詰で記入
- ③ 加入者名「東京潮陵樽中会」

(2) ゆうちょ銀行からの振替(記号番号で電信振替)の場合

- ① 送金先口座は「00180-61069」
- ※ 払込取扱票での口座記号末尾「-8-」は不要

(3) ゆうちょ銀行からの振替(店名で電信振替)の場合

- ① 店名は「ゆうちょ銀行〇一九(ゼロイチキユウ)店」

② 口座種別は「当座」

③ 送金先口座番号「0061069」

(4) 他の金融機関(ゆうちょ銀行以外)から振込の場合

- ① 銀行名は「ゆうちょ銀行」
- ② 店名は「〇一九(ゼロイチキユウ)店」
- ③ 預金種目は「当座」
- ④ 口座番号は「0061069」

事務局長 岸田 仁(67期)

The image shows two forms side-by-side. The left form is a '払込取扱票' (Remittance Slip) from the postal bank. It contains fields for account number (00180-8), branch number (61069), amount (2000), and payee name (東京潮陵樽中会). It also includes fields for the sender's name (山田 太郎) and address (東京都). The right form is a '振替払込請求書兼受領証' (Remittance Request Form and Receipt). It contains similar fields for account number (00180-8), branch number (61069), amount (2000), and payee name (山田 太郎). It also includes fields for the sender's name (山田 太郎) and address (東京都).

役員・幹事

役職	名前	卒業期	役職	名前	卒業期	役職	名前	卒業期
顧問	大浦 辰次郎	全54期	常任幹事	永野 茂	全54期	幹事	広田 直行	全72期
会長	佐々島 宏	全65期	常任幹事	寺岡 恵美子	全56期	常任幹事	和田 一男	全74期
副会長	今日出夫	全67期	幹事	間 利弘	全58期	幹事	飯田 恵之	全77期
副会長	南澤 孝夫	全65期	幹事	稲澤 君夫	全58期	常任幹事	木戸 敬太	全77期
監事	佐竹 茂市郎	全63期	常任幹事	東口 豊	全59期	幹事	織田 めぐみ	全79期
事務局長	岸田 仁	全67期	幹事	柳田 眞典	全60期	(連絡係)	鈴木 幸子	全81期
事務局次長	福井 早枝子	全65期	常任幹事	高橋 昭	全61期	常任幹事	柳原文	全82期
幹事	島 雄一	全46期	常任幹事	武田 立	全62期	常任幹事	佐々木 文雄	全85期
常任幹事	上野 淑子	全47期	幹事	西谷 謙司	全62期	常任幹事	宮野 人至	全86期
幹事	増田 裕二	全48期	幹事	前野 一夫	全62期	常任幹事	小葉松 知行	全90期
幹事	六郷 民治	全49期	常任幹事	橋本 明久	全64期	常任幹事	小島 綾乃	全90期
(連絡係)	蛸島 義弘	全50期	常任幹事	苫 孝二	定64期	常任幹事	須永 いづみ	全93期
常任幹事	上諏訪 一明	全51期	常任幹事	滝沢 純	全65期	幹事	村上 文一	全99期
幹事	金栄 紘夫	全53期						

発行日 平成28年3月末日 発行人 東京潮陵樽中会 佐々島 宏(65期) 編集人 南澤 孝夫(65期)